

非クロム羊革を使用したドレス手袋の機能特性

○角田由美子*¹, 今井哲夫*², 中島健*², 宝山大喜*², 岡村浩*³

*¹ 昭和女大, *² 都皮技センター, *³ 昭和女大・院)

目的 近年、製革工業においては環境面からクロムを使用しない非クロム革の製革技術の確立が要望されている。非クロム革については靴用甲革の機能性は明らかにされつつあるが、手袋用革の機能性については明らかにされていない。

本報では、加脂剤の異なる非クロム羊革を3種類、対照としてクロム羊革1種類、合計4種類の手袋用革を調製した。ついでその革を用いて4種類の婦人用ドレス手袋を製作して着用試験を行ない、素材面、製品面から機能性について検討した。

方法 手袋用革の一般的な性状としては化学分析、機械的性質、物理的性質、染色堅ろう度を測定した。手袋用革の水分特性としては吸放湿度、透湿度、吸水度、はっ水度を測定した。風合いをKES法により測定し、JIS L 1096による保温率、迅速熱伝導率計を用いて熱伝導率を測定した。手袋着用時の手袋内気候を温湿度センサーにより測定し、サーモグラフィを用いて着用前後の状態を撮影した。さらに77名の被験者による着用試験を行った。

結果 手袋用革の水分特性、保温性、手袋着用時の手袋内気候、熱画像からは、非クロム鞣し革とクロム鞣し革の差異や、非クロム鞣し革における加脂剤の影響はあまり認められなかった。非クロム革の引裂強さはクロム革よりも著しく低下し、KESによる風合いも非クロム鞣し革の方が劣っていた。着用試験では、クロム手袋よりも非クロム手袋において著しい型くずれが認められた。

以上の結果から、引裂強度や風合いおよび型くずれの改善が、非クロム革を用いたドレス手袋を実用化する上での課題であると考えられた。